

保育内容(人間関係)指導法の授業における 座席選択についての一考察

A Study of Seat Selection in Teaching Method of Childcare Content “Human Relationships”

キーワード：人間関係、保育者養成、グループ、保育環境、幼児教育

Keywords: Human Relationships, Childcare and Education Training, Group,
Environment in Childcare and Education, Early Childhood Education

村石 理恵子

MURAISHI Rieko

Ⅰ 研究の背景

人間関係の構築は物理的な接近によるところが大きい。名簿順に着席したら前後であった、馴染みのカフェで隣席になったといった物理的接近が心理的な接近になる場合も少なくない。非言語的行動における接近性は、人間関係構築に影響を与える。親和的な関係になった当事者は、あたかもそのきっかけは偶然のように受け止めるが、必ずしもそうとは限らない。運営者が人間関係構築のために意図的に座席を決めたり、グループのメンバーを意図的に編成したりする場合も多々ある。就学前教育におけるグループは、フォーマルなものは、クラス、クラス内の班が代表的なものである。クラス内の班の構成については、例えば入園当初には顔を合わせる頻度を高めるために居住地が近い者同士で班を構成したり、共通の遊び体験が持てるよう興味が似通った者が同じテーブルに着くようにしたりするなどの配慮が行われる。保育者は、クラス運営において、クラスを構成するメンバーがどの位置(場所、座席)にいるか、そこで人間関係構築につながる行動がみられるのか、子どもの年齢や発達の姿、時期によって保育環境に

についての意図をもっている。友定(2017)は、「就学前教育では、小集団と大集団で生活する仕組みは年齢問わず、家具調度、遊具などすべてに取り入れられている。(中略)小学校が一人机なのに対して、多くの園が1脚に4人から6人座りなのも、ロッカーが4～6人セットなのも、遊びのコーナーが3～5人前後が入るように設営されるのも、どこでも遊べる自由と、選んだ場所や遊具で他児との関係をもつためである」と述べている。さらに、青井(1995)が述べているように、「遊ぶ時の集団は一時的な集団ではあるが、ここでの関係が築かれることが、遊びそのものの経験であり、人間関係構築の基盤となっていく」のであり、気の合う友達とのインフォーマルな関係を築くことが、人間関係構築の基礎を培う幼児期の特徴的な姿である。

保育者養成課程の学生が実習等を通して学ぶ子どもの人間関係は、フォーマルグループとして、クラスや既に現場の保育者によって編成された班のメンバーや座席の位置を把握することで精いっぱいであり、インフォーマルなグループについては、遊び場面での「仲よし」や「仲間」を観察する程度に留まっている。そのため、保育者がフォーマルグループとい

ンフォーマルグループを往還し意図する人間関係構築と実際に観察している子どもの人間関係との関連などには、到底考えが及ばない。

幼稚園教育要領解説(2017)に「集団には、同じものへの興味や関心、あるいは同じ場所にいたことから関わりが生まれる集団や同じ目的をもって活動するために集まる集団もあれば、学級のようにあらかじめ教師が組織した集団もあり、それぞれの集団の中で幼児は多様な経験をjする。幼児の発達の特性を踏まえ、それぞれの集団の中で、幼児が主体的に活動し多様な体験ができるように援助していくことが必要である」とある。筆者は、短大初年次での「保育内容(人間関係)指導法」の授業で、自己開示、小グループでのロールプレイやエコマップ作成による関係性の構築等を行い、自分に向き合う体験を行うことは他者への関心につながり、自分を取り巻く人間関係を肯定的に俯瞰することにつながることを明らかにしている(村石, 2015)。カリキュラムの改正により、保育内容(人間関係)指導法の授業は、2年次科目になった。短大の学生は、入学から2年後には保育現場で子どもの人間関係構築を図る立場になる。そのため、保育者側の視点に立った人間関係の構築についても学修する必要がある。そこで、2年次には自分が保育者になった時を想定した内容、集団の構成についてどのように学ぶかを検討する。

II 目的

保育者養成課程の授業での座席選択が、就学前教育におけるフォーマルグループ構成の理解につながるかを分析し、授業プログラムにどのように反映するかを検討する。具体的には、A短期大学において保育演習室を使用する「保育内容(人間関係)指導法」の履修生に対し、授業時の座席選択の仕方を変化させ、そのうえで座席がもたらす印象の違い、保育者視点のグループ構成について考えさせる。そうした結果を検討して、2年次「保育内容(人間関係)指導法」の学修に反映させる授業プログラムの構築を目的とする。

III 方法と内容

1. 対象

A短期大学 2018年度 保育内容(人間関係)指導法履修者 64名

2. 調査

- 1) 2018年度保育内容(人間関係)指導法の実教室(保育演習室)の座席の選択についてのリアクションペーパー
- 2) 座席選択と保育者の意図についてのアンケート

<倫理的配慮>

本研究は、2018年度後期「保育内容(人間関係)指導法」の授業(研倫審・平30-2号)及び、座席選択と保育者の意図についてのアンケート調査(研倫審・2019-28号)ともに、研究倫理審査を経て実施している。

3. 内容

1) 座席選択についてのリアクションペーパー

A短期大学において、「保育内容指導法」の授業は保育演習室で行われている。この部屋は前方にホワイトボードがあり、6人用机が6台設定されている(図1)。2018年度前期の「保育内容(健康)指導法」「保育内容(言葉)指導法」の授業では、学籍番号によって振り分けた指定の座席に着席することを15回

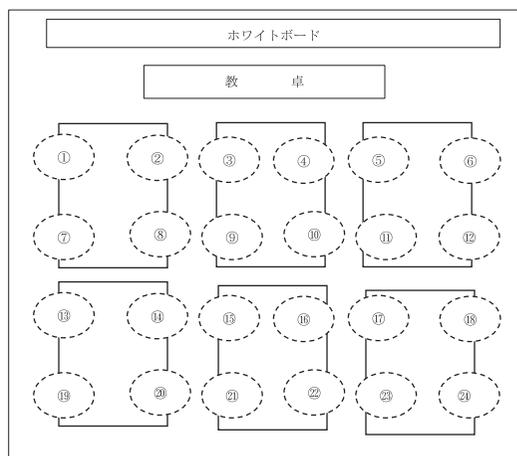


図1 保育演習室の座席

通して実施している。後期の「保育内容(環境)指導法」については、前期とはメンバーが異なる学籍番号による座席指定をしている。同じく後期「保育内容(人間関係)指導法」では、座席に条件を付けて決める場合と自由に選択する場合を設ける。その着席について、座席に関するリアクションペーパーに記述する。リアクションペーパーは、以下の3種類である。

- i. 自由選択座席のうちの6回(2018年9月24日、10月1日、10月15日、10月22日、10月29日、11月5日)
- ii. 条件付き座席のうちの2回(11月12日 条件:これまで座ったことがない場所且一緒になったことがない人がいる)(11月19日 条件:くじ引き)
- iii. 座席選択全体を振り返る 2019年1月21日

2) 座席選択と保育者の意図についてのアンケート調査の概要

2018年「保育内容(人間関係)指導法」受講者を

対象に、2019年11月11日、12日に表1のような座席選択についてのアンケートを実施する。

IV 結果及び考察

1. 「保育内容(人間関係)指導法」座席選択の振り返り

学生の記述したリアクションペーパーから、主な意見を抽出し、表2～4に示した。意見はほぼ原文のままとなっている。

1) 自由選択座席

2018年度後期「保育内容(人間関係)指導法」の学生が自由に着席した結果は、表2のようになった。

席の選択は、「前期がその席だったので」「いつも座っているから」などの記述に見られるように、選択ができるようになっていても、実際には同じ座席に座っているといえる。自由選択を意識的に利用している

表1 調査内容

- 1 あなたが、保育内容(人間関係)指導法で体験したことを踏まえて、大学の授業で 座席を選択することについてどのように思いますか。
- 座席を自由に選択する場合と、指定された場合に分け、それぞれ①授業が楽しみになる、②面倒でない、③安心感がある、④席の近い人と親密になる、⑤積極的に学習する、⑥課題に集中する、⑦意見交換しやすい、⑧私語が多い、⑨人との関わりが広がる、の9項目について、「とてもそう思う」「そう思う」「あまり思わない」「思わない」の4段階での回答を聞く。
- 2 保育現場を想定して、次の質問に答えてください。
- (1) クラス全員が椅子に腰かけて(机なし)集まるときの座席の形態をできるだけたくさん想像してください。図に示し、〇〇順等を入れてください。
 - (2) 保育者はどのような意図をもって座席を決めていると思いますか。例えばクラスで食事をするときに、グループごとの机を用意して座る場合、保育者がグループのメンバーを決める際の考え方、方針をできるだけたくさん想像してください。
 - (3) 保育者が座席を指定した時、どのようなメリット、デメリットがあるでしょうか。

表2 自由選択席の振り返り

(一部抜粋)

- ・前期がその席だったので、そこに座った。(15)
- ・前回、同じ席に座って授業を受けやすかったから。ものすごく集中して授業に取り組めた。(3)
- ・いつも座っているから。
- ・いつもと同じ場所。(12)真面目に授業に取り組めた。
- ・みんな真面目に授業を受けているので、私も真面目に受けられた。
- ・前のほうでホワイトボードが見やすいし、ノートがとりやすい。(7)
- ・あいていたから座った。前に座ることによって先生の話がよく聞けた。(4)
- ・だいたい前の席と同じところに座ろうと思った。
- ・友達の近くだから。
- ・あいていたから座った。

※()内の番号は、その日に座った座席番号

学生は「前のほうでホワイトボードが見やすい」「友達との近さ」という理由をあげているが、少数である。こうしたことから、自由に座席を選択するのは初回のみで、それ以後は習慣的に同じ席に着く傾向がある。

2) 条件付き座席

授業者が、条件をつけた2回(11月12日、11月19日)の結果は表3のようになった。

条件付きの座席の場合、メンバーの違いで気づくことと位置そのものの違いで気づくことが表れている。メンバーによって、今まで出会わなかった人との関わりをよくとらえると良さを感じ、私語をする相手やエクササイズのやりとりで困難を感じる相手とメンバーになるとマイナスの感想をもったのである。また日頃は授業開始に遅れる等の傾向があり、後方に座る学生が前の席に来る機会を得て、前方の座席の良さを発見していた。全体的には、マイナスに捉えた者は少数であり、刺激を得る機会になったといえる。自由選択座席の振り返り(表2)に見られるように、最初に座席の位置が決まってしまうと、自由選択が認められていても、前例に倣う傾向があるため、常態化した態度を打ち破るためには、座席選択に条件を提示する

ような刺激を適切に組み込むことが必要と考えられる。

また、くじで偶然に決められていることには不満を感じていない。自分で選択しないことに「楽」といった感覚や、偶然を受け入れる過程を楽しむ感覚がある。大学の授業で、くじを引くといった遊び感覚を味わうことで、偶然の要素がもたらす効果や「いろいろな人と関わるができることが大事」という人間関係構築につながることを考えた意見もあった。半固定化した自由選択(既存の人間関係)に、刺激をもたらす方法となっている。

3) 座席選択 全体振り返り

座席選択全体を振り返ったリアクションペーパーから表4のような結果になった。

この結果から、授業の座席選択は、自由に選ぶ場合、親しい人と一緒に座ることが多く、それは意見交換がしやすいことや、ロールプレイをするときに親しい人同士では恥ずかしさが少ないため受講しやすいと思っていることが明らかになった。その一方で私語が多くなることも自覚している。ただし、条件を指定されることで授業での課題(目的)に対して効果があると考えられることも明らかになった。何らかの条件に基

表3 条件付き座席の振り返り

(一部抜粋)

(第7回)

- ・いつもと違うということで前に座った。前だと授業がよくわかる。
- ・グループで話し合い以外のことを話さなかったのよかった。
- ・いつもと違う回答が出たりして楽しかった。
- ・座ってみたかった位置に座ってみた。(⑥)前にいることで見やすく、集中しやすくなった。
- ・話し合いの時に、みんなの意見をだせて、とても良い班だと思った。
- ・分からないところを教えることもできてよかった。
- ・いつもの席がとても良いことに気づいた。授業とは関係ない私語の多さにびっくり。(①)
- ・話したことのない人とショートエクササイズを一緒にやるのが大変だった。

(第8回)

- ・いつもと違うメンバーで新鮮でした。
- ・自分で迷わなくていいから楽。
- ・席を決めるワクワク感があった。(④)
- ・どこになるかも誰となるかも分からないのがドキドキワクワクで面白い。
- ・くじ引きが一番平等。誰もが納得する。(⑱)
- ・スクリーンが見やすい。(⑩)自由だとどうしてもいつも一緒にいる人たち同士でかたまってしまふ。いろいろな人と関わるができることが大事。自分が保育者になった時、子ども達の気持ちになって考えることができる気がする。

※()内の番号は、その日に座った座席番号

づいて座席が決まると、新鮮味があり、私語は少なくなる。話し合いに意見が多様になる印象がもてたのである。中には、私語が多くなってしまったり、エクササイズがうまくできなかったというネガティブな体験もあった。席の決め方については、くじ引きならば公平性が確保されていると考えたのである。山田(2018)の研究では、大学生及び大学院生を対象に、回顧調査をしたところ、学生は公平性が担保されることを求めており、くじ等の方法を妥当と考えていること、自分で意思決定ができない方法を嫌う傾向が明らかにされている。児童を対象にした研究は少ないが、長野・横川(2016)の研究では、小学校3年生以上の児童を対象に、教室での座りたい座席を調査したところ、前方の座席は3年生で高く、後方の座席は6年生で高かった。選択理由については、黒板の見えやすさを中心とした授業関連のカテゴリーに該当する回

答が多かった。「快適性」「先生との関係」の理由は学年と共に上昇する傾向が明らかになった。「先生との関係」というのは、3年生は先生のそばを好み、6年生は離れている席を選んだということである。

自由記述の中から、自分の体験を踏まえて、子どもの座席についての言及があった中で、1年間固定が良い、毎回入れ替えると良いといった極端な意見もあった。指定席にしていることで保育者が子どもの把握や援助に役立っていることを読み取っているものもあり、自分なりに席の選択についての保育者の意図の理解につながった学生がいた。3割程度ではあるが、自分たちの座席選択体験から保育場面を想像して考えが広がった。自分たちの体験を通して考える機会になるのだから、座席選択の条件を意図的に変化させることを通し、学生が自分自身の体験をどのように活用するかをさらに見極めていくことが必要である。

表4 座席選択 全体振り返り

(一部抜粋)

- ・自由席だと仲良しの友達がくっついてうるさくなりがちだが、自分が黒板の見やすいところに座れる。自由席にしてみると、クラスの仲よし、仲間はずれ、ケンカ中などみえるので、クラスの状況が分かりやすい。
- ・前の方に座ると、ホワイトボードを見ていてあまり後のほうが見えないから集中することができる。
- ・一度座ると、なんとなくの流れで同じところに座ってしまう。どこに座ろうかとあまり考えないが、仲の良い人と一緒に座る傾向があると思います。授業について、わからないことを聞きやすいから。
- ・自由であると仲が良い人同士で座るため、ロールプレイか話し合いの際には、盛り上がり、活発に話し合いができるのはとても良いことだと思うが、その逆で、仲が良く話すからこそ私語が増えてしまうなというを感じる。
- ・いつも一緒ではなく、いろんな席を試すのもよい。友達の輪をひろげる。
- ・くじ引きだと普段あまり話せないことも話せるからいい刺激にもなると思った。でも毎日だとつまらないから、この授業のように、たまにあるといいと思う。
- ・自由だと席を選ぶのが面倒くさい。指定のほうがいろんな人と入れられるから良いんじゃないかと思った。
- ・自由な席に座れるということは、毎回違う席に座れるので、今までの授業で交流をもてなかった人とも関わることができるので、良いと思った。
- ・幼稚園、保育園の時には、席を指定した方が子どもも迷わずトラブルを避け、一人一人の性格に適切な対応ができて、より良いものになると思う。決めるのは、大変であるかもしれないが、席を指定するべきであると私は思う。
- ・子どもは物に愛着をもって生活することで安心して過ごすことができるから、席はある程度始めに子ども同士の関係や性格などを知ったら1年間同じほうが良いと思う。
- ・それぞれの人の考えがあり、こんな考え方もあるんだと初めて知る部分も私の中で多くありました。このことを通して、自分が保育者になった時は、毎回席順を入れ替えていくのもいいかなと思いました。
- ・実習で園に行った時を振り返ってみると、指定席が多かったと感じた。指定にすることで、自分の居場所はここだと定着することができるからなのかなと思った。また、園児で自由席にすると、「私はあのこと一緒に良い」「僕はこの席が良い」といった個人の意見が沢山あがり、解決するのが大変そうだな、と思った。しかし、自由席にすることで、他者の考えを尊重する気持ちも芽生えると思った。
- ・今まで一緒にいたことのない人等、1つの条件に従って授業を受けると、初めて深く話すことができた。クラスが替わったり、入園してまだ時間がたっていない時は、指定して環境に慣れてもらうことが必要だと思った。

2. 「座席選択について」のアンケート調査

1) 大学の授業で座席を選択することについての考え

授業で座席を選択することについて、表1に示したように①授業が楽しみになる、②面倒でない、③安心感がある、④席の近い人と親密になる、⑤積極的に学習する、⑥課題に集中する、⑦意見交換しやすい、⑧私語が多い、⑨人との関わりが広がる、の9項目について調査した。(回答者60名)「思わない」1から「とてもそう思う」4と得点化し、平均値と標準偏差を算出した。(表5)この平均値を、座席を自由に選択する場合と指定された場合について比較し、対

応のあるt検定を行ったところ、①授業が楽しみになる($t(59) = 8.47, p < .05$)、③安心感がある($t(58) = 5.10, p < .05$)、④席の近い人と親密になる($t(58) = 4.83, p < .05$)、⑦意見交換しやすい($t(59) = 4.83, p < .05$)、⑧私語が多い($t(59) = 8.01, p < .05$)に有意差が認められ、いずれも自由席の方が得点が高く、指定席に比べ「そう思う」という結果になった。自由席が意見交換しやすく授業が楽しみになると評価することが示された。

自由記述(表6、7)にもあるように、自由席は、安心して意見交換がしやすく楽しく授業を受けるが、時

表5 座席選択についての回答平均

質問項目	指定席		自由席(条件なし)		t
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
①授業が楽しみになる	1.75	.566	2.77	.803	8.47 *
②面倒でない	2.85	1.022	2.63	.948	1.09
③安心感がある	2.12	.903	3.08	.780	5.10 *
④席の近い人と親密になる	2.55	.825	3.15	.605	4.83 *
⑤積極的に学習する	2.50	.695	2.58	.690	.67
⑥課題に集中する	2.58	.759	2.57	.615	.13
⑦意見交換しやすい	2.17	.799	3.37	.604	8.55 *
⑧私語が多い	2.18	.741	3.20	.653	8.01 *
⑨人との関わりが広がる	2.48	.884	2.71	.737	1.44

* $p < .05$

表6 席が指定されている場合

(一部抜粋)

- ・私語は少なくなると思うが、話し合いの時などに上手く意見を交換出来ない可能性がある。
- ・出席番号順が一番集中できる。
- ・指定だと面倒でないからよい。ただ、特定の人だけとの関わりになってしまう。
- ・普段話さない人とも話せる。
- ・指定されると、人との関りが広がらないと思う。
- ・仲が良くない子が近くなりがちなので、授業に集中できる。自由よりかは私語が少ない。
- ・仲良くない人と座ると静かだが意見交換がしづらい。
- ・楽だし、仲の良い子が固まらず静かに授業が受けられる。
- ・他クラスの人とかだと話しかけづらい。
- ・決められていると楽だけど授業が楽しみでなくなる。
- ・授業を真剣に聞けるからいい。個人的に前の方がいいので後ろになったらヤダ。
- ・席がもう決まっているのであれば楽だけど、変に条件とか付けられて自分で決めるのは面倒。
- ・席を見付ける面倒は減るが、話し合いをするときとかに話が進まなくなる。

に私語が多くなるという実態を示している。表6の指定席についての意見では、楽だと思っているが、授業中のワークによっては、話し合いがやりにくいという意見も上がっている。前述の9項目の得点化平均値比較及び表7「わくわくして授業に来れる」「仲が良い子と一緒に意見交換しやすい」などから、大学の授業での座席選択は自由が良いと思っている傾向がみられる。座席選択に関する調査研究として、テーブルでの座席選択について、大学生を対象に調査した研究(松尾,1993)では、状況における座席選択パターンは、どの場面においても対面及び横並びの席の選択が多いこと、会話場面と協力場面の想定、共行為場面と競争場面の想定で似ており、これは相手との相互作用を要求される場合とそうでない場合ととらえられた可能性があることが報告されている。ここから、授業内での活動で要求されることがらによって、それに応える席を選ぼうとすることが考えられる。一方、河内・小嶋(2015)の研究では、「心理臨床学」の講義において、毎回異なる学生と隣に座ることを要求し、初めと終わりに同じ質問をしたところ、交流やエクササイズを通じて、他者との交流についてより他者と関

わろうとするような意識の変容が見られた。授業での演習の内容によって、意図的なペアリングの座席指定を行うことで、意識の変容を促す結果が示されたのである。

2) 保育者の意図を想像する

学生へのアンケートの結果について、表1の質問2(1)については、今回の分析対象とせず、(2)(3)について、保育者がグループ編成と座席指定についてどのような意図をもっているか、学生が想像したことを検討する。(表8)まず、具体的にクラスの食事の場面を例にして、食事内容(離乳食の段階:前期、中期、後期食、完了食)のグループ編成や、「安心して食事ができるように」「食事に集中できるように」「時間内に食べられるように」とその場面での活動が子どもにとって適切に行われるグループが望ましいということを考えている。全般的には、「誰と誰が仲良いかを考えて」「いろんな人との関りをもっているいろんな考え方を知ってほしい」「交流を深める」「子ども同士の相性を考える」「いろんな人と仲良く話せるように」「いつも関わっていない子と一緒にする」といった記

表7 席を自分で選択する場合

(一部抜粋)

- ・空いている席を探すのにウロウロするのがめんどろ。
- ・意見交換がしやすいが、仲の良い人が近くにいると私語が多くなると思った。
- ・面倒だなと思う。指定よりかは楽しい。
- ・話し合い等行う場面ではこの方が話しやすいが盛り上がり、うるさくなりがち。
- ・意見交換しやすいし、授業が楽しみになる。
- ・意見交換しやすい環境は授業内容の理解に繋がる。
- ・自分が授業を受けやすい(意見交換のしやすさや黒板を見る位置)環境を選べる。しかし私語が多かったり、真面目に取り組む人とそうでない人と分かれると思う。
- ・自分の好きな位置で座れるから落ち着く。
- ・誰とでも座ることができるので人との関りが広がる。
- ・気を使わないで授業を受けることができる。
- ・毎回自分で席を選ぶことでわくわくして授業に来れる。
- ・仲が良い子と同じ班だと自信がない意見でも発表できる。
- ・分らないところをためらわずすぐ聞くことができたり、見せ合ったりできる。
- ・座りたいところ、空いているところに好きに座られるからいい。
- ・何人づつか伝えて子供たちに決めさせる。相性が悪い子同士はできるだけ一緒にならないようにする。
- ・名前順に近い班→自分が並ぶ際に近い人を覚える。
- ・子どもたちが話し合って決める。

述から、メンバー間の人間関係がよい状態、もしくは悪くない状態を目指して編成するという、メンバーの人間関係について言及している記述が多い。人間関係を広げていこうにしたいという思いが見られる。また、「自分でできる子と人の手を借りる子と同じグループにする」、「活動する時は出来る子苦手な子のバランスを考える」「グループごとにリーダー気質の子を入れる」といった、活動をグループ単位で進める時に、それぞれに進行しやすいグループになるような編成、方針をあげた記述もあった。「(要)配慮児を保育者の近くに」「サブの先生が近くにいられる」など、個別に支援を行うことを想定し、援助しやすくなる座席を考えている記述もあった。決め方について、男女や人数が均等になるような編成、年齢・月齢による編成、名前順(名簿)による編成を考えることをあげている記述もあった。

このように、学生はかなり具体的な想像ができていたことがわかった。これは、このアンケートの実施が

2年生の11月、ということで実習での体験、授業での学びなど、様々なことがもたらした結果だと考えられる。ここから、学生がグループ編成の意図を想像した時に、その意図は現場でも実施していることをフィードバックされ納得するような授業プログラムが相応しい。もちろん保育現場ではさらに多様な意図があり、配慮の面から考えると、例えば、食事の場面では、子どもの健康・安全への配慮から、食物アレルギーのある子どもの把握がしやすい場所やメンバーを編成したり、チームで保育する時には、複数の保育者が誰でもわかりやすい席として、名簿をもとにした編成を行う例もある。様々な要因を考慮して、グループを編成し、その編成の目的が達成できたり、子どもの姿が変わることで、それに合わせて新たな編成に変えていく。いつ変更するか、どのように変更するか、グループの良さを子どもが感じているかなどを把握して、保育している。このような保育者の意図への関心を持たせられるような機会があることが望ましいと考える。

表8 グループ編成についての保育者の考え・方針

(一部抜粋)

- ・ 仲が良すぎて活動・食事に集中できないことがないように。
- ・ 乳児は前期、中期、後期食、完了食でグループを作っている。乳児は遊び食べが目立つ子や、普段から仲良しで一緒にいると会話や遊びに繋がる子が一つのグループに集まらないように決めている。
- ・ 安心して食事できるメンバー。
- ・ 私語が多い、すききらいが激しいなどの理由で時間内に食べられない幼児、障害等により支援を必要とする幼児などのような幼児はできるだけ教員と近いところに置く。
- ・ 活動しやすいよう決めている。子どもが集中できる座り方。
- ・ 自分でできる子&人の手を借りる子と同じグループにする(協力性)。
- ・ 活動するときはできる子、苦手な子のバランスを考える。
- ・ グループごとにリーダー気質の子を入れる。
- ・ 誰が誰と仲良いかを考え、子供達の居心地の良さを考える。相性。
- ・ 出来るだけ多くの子と触れ合えるように。
- ・ 子どもの人間関係(話せる子がいるか、ふざけ合ってしまう子がいないかなど)。
- ・ いろんな人との関りをもっているんな考え方を知ってほしいというねらい。
- ・ その子たちの個性を尊重できるように関わりを大事に決めている。
- ・ 全員がクラスに慣れてきた時期には、あまり関わったことのなさそうな子と同じグループにしてみる。
- ・ 要配慮児の子はなるべく保育者の近くに座席を配置している。
- ・ 準備の遅れている子はロッカーから近い位置。
- ・ 落ち着きのない子どもをサブの先生が近くにいられる端の席や後ろの席にする。
- ・ 何人ずつか(班の人数を)伝えて子どもたちに決めさせる。
- ・ くじ引き、早いもの順、名前順、男女別、誕生日順、月齢順。

次に、保育者が座席を指定した場合のメリット・デメリットに関する学生の回答について検討する。(表9) メリットとして、様々な子、遊んだことのない子、新しい友達との「関わりが広がる」ことがあがっている。けんかにならない、仲間外れがないという記述があり、指定することで人間関係の構築にメリットを感じられるのである。また、課題を円滑に進められる、お互いに補える、迷わない、時間がかからない、移動しやすい、子どもが覚えられる、加えて保育者として、目が行き届く、把握しやすい、教えやすい、準備しやすい、覚えやすい、相性がわかる、といったメリットを想像している。援助のしやすさは、特に支援の必要な子に援助がしやすいと考えている。何らかの意図をもって、座席を指定することで、子どもの人間関係を育てたり、活動を効果的に進めていくための援助をしやすいと考えている。子ども一人一人に合わせた援助をする必要があり、そのために座席という環境を考えることが、有効であると感じている。環境による教育とは、保育者の意図の反映であり、保育者視点を持つことができたといえる。

デメリットとしては、「一定の子ばかりになる」「他のグループとの交流が少なくなる」ということが挙げられている。これは、メリットとしての「関係の広がり」の副次的な負の側面である。これを解消していくには、グループ編成への省察を行い、適切な編成へと修正し実践していくことが重要であると、授業者が伝えていく必要がある。すべての子どもが満足するとは限らないから、「不満が出る」「めめごとがおきる」ことは想定内とし、めめごとの解決を目指して時間をかけてやりとりを見守るなど、実施した際のもう一歩先の援助まで考えさせる授業が必要となる。

また、指定すると「子どもの自主性がなくなる」「自分たちで解決する力がつかない」といった、自分で席を選ぶ行為がないことをデメリットととらえる意見があった。これは、学生としての自分が授業で座席を自由に選ぶことをよしとしており、子どもにとってもそれが同様に行われることが大切だと考えた判断できる。

保育者として編成を考えるのに「時間がかかる」「考えるのが面倒」という手間を惜む意見や、「目の届きやすい子にしか目が行き届かない場合がある」といっ

表9 保育者が座席を指定した場合のメリット・デメリット

(一部抜粋)

(メリット)	(デメリット)
<ul style="list-style-type: none"> ・いつも一緒に遊ばない子と関われる。 ・つながりが広がる。 ・普段一緒に遊んだりしない子と関わるチャンスがある。 ・様々な子と関わりが増える。仲が良くなる。 ・友達とのつながりが広がる。新しい友達と会話ができ意見交換ができる。 ・いつも関わらない子と関わるようになって、関係が広がっていく。 ・喧嘩にならない。 ・仲間外れがない。 ・トラブルが減る。 ・活動、話に集中しやすい。 ・お互いに足りないものを補い合えるような組み合わせにできる。 ・迷わず座れる。教え合うこともできる。時間がかからない。 ・誰がどこにいるのか把握しやすい。子どもの特性に合わせた席を指定できる。 ・配慮点を事前に考えることができ、準備しやすい。 ・支援の必要な子など保育者から目が届きやすいところにおける。 ・席決めが楽。時間がかからない。出欠が分かりやすい。 ・意図的に座席が決められる。平等となる。 ・そこに座るのが習慣になるため自分で座れるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班以外のメンバーとの活動や交流が少なくなる。 ・一定の子とばかりになってしまう。 ・人間関係を深めたいと意図的に近くに座れなくなる。 ・子供から文句を言われる。保護者からも言われる。「○○君の近くにしないで。」 ・「○○ちゃんと座りたかった」と思う子供がいるかもしれない。 ・子どもたちの自主性がなくなる。 ・自由がなく、楽しくない。 ・ずっと指定していると自分で動く力がつかない。 ・目が届きやすい子にしか目が行き届かない場合がある。 ・考えるのが面倒くさい。 ・座席表を作るのに時間がかかる。 ・席を考える時間やその子にあった場所を考え時間がかかる。

た自分の援助への不安をあげている意見もあった。民秋(2006)は、保育における集団を、クラス・班など(子どもに)「与えられる集団」と、遊び仲間など「つくる集団」に分けた。その上で、社会規範としての文化の働きから集団の類型と関係づけると「集団秩序の維持」「個人の欲求充足」が、「与えられる集団」と「つくる集団」について、「保育実践において、この2つの集団づくりにいつも配慮しておく必要がある」と述べている。保育者は、子どもが自主的に「つくる集団」を把握しつつ、意図をもって「与える集団」を構成する必要がある。

しかし、学生にとって自分の感覚や問題意識を、保育現場の状況に応用して考えるのは、なかなか難しいことである。学生は席を自由に選びたいので、まず子どもにとっても自分で席を選択することが重要だと考える。しかし、子どもの自由な選択に任せるとトラブルになるかもしれない、トラブルは避けなければいけない、だから「子どもの選択に任せろ」でなく、むしろ「保育者としてよい指定をしなければいけない」という発想に至るのではないか。しかし、トラブルとは行動の変化のチャンスなのである。「行動が変容することを経た後、子どもは人との関わりを構築していく」ことを、授業者は伝える必要がある。つまり、「その機会はトラブルでなくチャンスであり、課題意識、仲間意識、対話などを生み出す新たな視点となること」を伝える授業が必要なのである。

2018年度の授業での座席選択についての振り返りでは、保育現場、子どもの実態への言及が3割程度であったことを受けて、アンケート調査を行ったことで、学生は、自分の体験を振り返るだけでなく、保育者の視点をもうけ、座席選択に関わるメリットとデメリットを考えた。自分が授業での座席選択をどのようにしたのかを振り返ることで、保育における子どもの座席選択について応用して考えている。ここから、機会として学生が保育現場への応用についてさらなる考察を行うための体験にする必要があると考える。

筆者が、座席(メンバー)を指定している授業で、“なぜ、私はこのメンバーと一緒にこの座席を指定されたのか”と学生から問われたことがある。この学生にとっては、日頃からあまり関わりのない学生と一緒に

に授業を受けることが嫌だったのである。そこで、学生にとって今までの授業では同じグループの友達に頼る形で、自分から発想したことを表すことが少ないため、今回の授業ではむしろ自分の意見を表しリーダー的な体験をすることを期待して、座席(グループ)を決めたという話をした。この説明に納得した学生は、自分なりに新しいグループのメンバーとの共同作業において、以前よりも自分から発言することが増えた。この事例から、大学生の学びにおいて意図的な座席(グループ)を指定した場合、学生が主体的能動的に教師の意図に沿った行動をとったといえる。座席を意図的に指定するときは、その趣旨を学生に伝えることが大切であり、これを今後の授業に反映させる。これは保育者が意図的な座席(グループ)指定を実施することに共通する視点をもたせることである。座席という物理的環境と絡んだグループ構成も、子どもが主体的に行動するための環境であり、その意味を考えていくことが保育者の視点を持つために必要である。

V 結論

以上のような考察から、「保育内容(人間関係)指導法」に、意図的な座席選択体験を活用した授業プログラムを構築する。

1. グループ構成について考える体験につながる座席選択

A短期大学で2020年度からは100分14回授業となる予定であり、この授業で次のような座席選択を行う。実施に当たっては、第1回で座席選択についてのガイダンスを行い、座席番号を振った座席表を共有し、選択座席の場合の着席までの流れをスムーズにできるようにする。ここで、偶然性、多様性、ゲーム性、時には課題解決といったように、条件を与えて座席を選択する体験を組み込む。

1) 学生自身が座席選択の体験をし、振り返る

- ①指定席：授業者が指定した席に座る。その座席選択の成果を振り返る。例「学籍番号による指

定)指定～着席～授業～振り返り

②条件つき座席:条件を与え、その条件を満たすように、席を選ぶ。その座席選択の成果を振り返り、分析する。例「くじ引きによる決定」「今まで一緒になったことのない人」「今まで座ったことのない席」「ジャンケン等のゲームの結果」「○○が好きなもの同士」座席選択前に、授業者から、条件の意図を説明する。選択実施～着席～授業～振り返り

③自由席:自分で自由に席を選ぶ。その座席選択の成果を振り返り、分析する。選択実施～着席～授業～振り返り

2) 保育者の座席選択の意図を理解し、子どもの人間関係構築につなげる

保育者はどのような意図で子どもの座席を自由・指定しているのかを考える。保育者の座席指定の意図は、初期は個別把握のために名簿順、中期は広がり求めていろいろな組み合わせで編成する。また、活動の目的に合わせて、乳幼児期は安定を優先した食事の座席やグループを作ったり、何をつくりたいのか選択して共同製作グループを作ったりしている。また、座席が決められない子や仲間関係が希薄な子など援助が必要な子にど

う対応しているか、アレルギーや障害など個別にどう対応しているかといった観点から意図を理解する。このような意図の解説を、授業テーマの中で随時入れていく。そこから、インフォーマルなグループ形成による人間関係把握とフォーマルなグループ(クラス等)での人間関係構築にどのように往還させているか、子どもの人間関係構築につなげる視点をもたせる。

2. 子どもの人間関係の構築について考える授業プログラムの提案

授業でどのように進めていくのか、例として第4回および第5回の授業を提案する。第4回の授業では、「友達との出会い、関係の構築」をテーマに、いざこざの事例を取り上げる。第5回の授業では、「生活を通して育つ」をテーマにし、入園からの生活の姿を理解し、その時期にふさわしい環境について話題にする。授業計画のテーマと座席選択に関わる内容と組み合わせ、第4～5回での学修内容を表10、11のようにする。

このように座席選択に関わる内容を、「保育内容(人間関係)指導法」の学修内容に反映させる。各回の授業プランを積み重ね、学生が保育環境としての座席選択を深く学ぶように実施することを提案する。

表10 保育内容(人間関係)指導法 第4回授業

第4回 友達との出会い 関係の構築
<p>【本時のシラバス】 (ねらい) 科目の理解: インフォーマルな友達関係を形成しつつ、クラスの中でフォーマルグループを編成することで、人間関係を広げていくこと、その際の保育者の環境の構成、援助について考える。 座席選択の理解: 条件に合う座席を選択し座る。その座席選択の成果を振り返り分析する。</p> <p>【学修内容】 (仮説) 条件つき座席選択での効果を評価することで、グループ編成や座席に意味があることに気付く。 (試行) ・「今まで一緒になったことがない人」という条件での座席選択の成果を振り返り、その条件の意図を考える機会を与える。 ・インフォーマルな関係の変容とフォーマルな関係との関連性について考える機会を与える。また、授業終了後に、次のような課題を学生に課す。 (学生への課題) 保育者はどのような意図で、環境(グループ編成、座席)を考えているのかを想像する。</p>

表 11 第5回授業

第5回 生活を通して育つ人との関わり
<p>【本時のシラバス】 (ねらい) 科目の理解：子どもの生活する姿の変容を理解し、その際の保育者の環境の構成、援助について考える。 座席選択の理解：条件に合う座席を選択し座る。その座席選択の成果を振り返り分析する。</p> <p>【学修内容】 (仮説) 条件つき選択座席での効果を評価することで、グループ編成や座席に意味があることに気付く (試行) ・「今まで座ったことがない席」という条件での座席選択の成果を振り返り、その条件の意図を考える機会を与える。 ・子どもの生活する姿と環境との関連性について考える機会を与える。また、授業終了後に、次のような課題を学生に課す。 (学生への課題) 自分が保育者として、どのような意図でどのような環境(グループ編成、座席)を構想するかを考える。</p>

3. 今後の課題

今回の提案を実際に行い、学生の学修にどのように反映したかその振り返りを行い、就学前教育におけるグループの編成について、更に検討する。また、実施に当たっては他の科目での学修との連携が欠かせない。同じ教室を使い、座席選択の機会のある授業での体験も、学生にとって座席選択から人間関係構築について考える課題達成の機会になっている。子どもの実態や保育の現場の理解にあたって、学生自身の体験をどう結び付けるか、実感のこもった学修につなげるため、引き続き授業を工夫する。また保育者を対象にグループ編成についての調査を行い、実際の編成意図や方針について分析し、より実践的な内容を学修するためにどのような授業を行うか継続した取り組みが重要であると考えられる。

引用・参考文献

青井倫子(1995) 仲間入り場面における幼児の集団調節—「みんないっしょに仲よく遊ぶ」という規範のもとで— 子ども社会研究, Vol. 1 June, pp. 14-26
 青木久子・松村和子(2019)『トポスの経営論理』萌文書林
 大坊郁夫(1998)『しぐさのコミュニケーション』サイエンス社
 平山許江(2013)『領域研究の現在〈環境〉』萌文書林

保育教諭養成課程研究会・日本保育者養成教育学会(2018) 幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を併設する際の担当者及びシラバス作成について

保育教諭養成課程研究会(2017)『幼稚園教諭養成課程をどう構成するか～モデルカリキュラムに基づく提案～』萌文書林

上條晴夫(2011)『実践 教師のためのパフォーマンス術』金子書房

河内晴美・小嶋玲子(2015) 教員・保育者をめざす大学生の人間関係に関する意識—支援者としての学びを通して— 教育心理学会第57回総会 抄録

菊池里映(2005) 保育場面において遊びを捉える保育者のまなざし—“遊び集団を捉える”ことを困難にしているものは何か— 教育方法学研究, 第31巻, pp. 25-36

北川歳昭(1998) 教室の座席行動と個人空間—教師への距離の調整としての学生の着席行動— 中国短期大学 実験社会心理学研究, 第38巻第2巻, pp. 125-135

民秋言(2006)『保育内容・人間関係』岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行監修 金田利子・齋藤政子編著 第8章 pp. 91-111 同文書院

長野弘和・横川和章(2016) 児童の座席指向に関する研究 —座席の好みとその傾向— 教育心理

学会第58回大会 抄録

- 松尾貴司(1993) 座席選択に関する調査研究 愛知淑徳短期大学研究紀要, 第32号, pp. 73-77
- 文部科学省(2017) 幼稚園教育要領解説
- 村石理恵子(2015) 短期大学初年次における領域「人間関係」の授業検討 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学紀要, 第50号, pp. 103-112
- 村石理恵子(2019) 幼児理解につながる授業の検討: 領域「人間関係」を視点にして 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学紀要, 第54号, pp. 67-77
- 竹石聖子(2015) 幼児期の人とかかわる力と保育—インフォーマル集団の育ちに着目して— 常葉大学短期大学部紀要46号, pp. 139-146
- 多根井重晴・岡村季光・豊田弘司・陳福士・安西和紀(2019) 座席位置とエゴグラム及び情動知能の関係 教育心理学会第61回総会 抄録
- 東京学芸大学附属幼稚園(2000) 人とかかわりを通して道徳性の芽生えを培う—いざごの場面を通して— 平成10・11年度研究紀要
- 友定啓子・青木久子(2017) 『領域研究の現在〈人間関係〉』萌文書林
- V. P. リッチモンド・J. C. マクロスキー山下耕二編訳(2006) 『非言語行動の心理学—対人関係とコミュニケーション理解のために—』北大路書房
- 山田智之(2018) 小・中・高等学校時代の座席決めに関する研究 上越教育大学研究紀要, 第38巻第1号, pp. 75-84
- 山田千明・伊藤絵里菜(2017) 一人一人を生かす集団保育—グループ分けの工夫より— 山梨県立大学人間福祉学部紀要, Vol. 12, pp. 95-105